

何故コートジボワールでは  
フランス語が定着しないか

チーム 3



# コートジボワールについて

- 正式名称：コートジボワール共和国
- 人口：22,671,331人（2014）
- 公用語：フランス語
- 首都：ヤムスクロ
- 63の民族  
(バウレ人、ジュラ族など)



# 言語と部族

- アカン系(バウレ人、アンイイ族など)
- 潟湖系(アカン人、エブリエ人など)
- クル系 (ベテ人など)
- 南東マンデ系 (ダン人など)
- マンデ系 (マリンケ人、ジュラ族など)
- ヴォルタイック系(セヌフォ人など)

以上の6大グループがあり、国内には63もの民族が住んでいる。

# 公用語

- フランス植民地時代にフランス語が公用語に。
- 独立後も他の植民地の国と同じく、フランス語を公用語として設定。
- 現在では初等教育から、フランス語教育が行われている。

# クイズ

コートジボワールの公用語の使用率は何%でしょう？

- 1 .約 100%
- 2 .約 75%
- 3 .約50%
- 4 .約25%

A: 3 番(54.6%)



# 何故使用率が低いのか

- 公用語よりも土着言語の方がポピュラー
- フランス語を使うよりも表現をしやすい。
- 多くの部族があるもののお互いの言葉を覚えている。



# 土着言語の背景

- 独立後の初等教育におけるフランス語教育の質の低下
- 植民地化以前より、お互いの部族の言葉を覚えて、コミュニケーションしていた。
- フランス語からの脱却をすることでコートジボワール人としての創造性の復権を目指す

# 結論

- 独立後の仏語初等教育の低下・広域化
- コートジボワール人の創造性の復権
- 土着言語の存在

以上の理由から、

コートジボワールでは、フランス語が公用語にもかかわらず、定着していない。

# 考察

- ナショナリズムの推進により、フランス語の使用の場は少なくなる。
- より土着言語が使用されるようになる。
- 公用語としては残るが形骸化する可能性も大。

# 出典

- <http://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Books/Sousho/456.html>
- [africa-rikai.net/edudata/COTE\\_D\\_IVOIRE.html](http://africa-rikai.net/edudata/COTE_D_IVOIRE.html)